

通信品質検討アドホックグループの開催について

1 開催の目的

0AB～J番号を使用するIP電話サービスについては平成16年に導入されたが、「接続品質」、「総合品質」及び「ネットワーク品質」以外に、「安定品質」として「アナログ電話用設備を介して提供される音声伝送役務と同等の安定性が確保されるよう必要な措置」を講じることを求めている。

従来、品質確保の機能を持たないベストエフォート回線を使用した050 IP電話サービスは提供されてきたが、当該回線のブロードバンド化に伴う通信品質向上に伴い、0AB～J IP電話サービスの提供の要望も多くなってきている。これまで、「安定品質」を満足する措置として「音声パケットの優先処理」や「音声とデータの帯域分離」を認めてきたところであるが、こうした技術の進展に伴う「安定品質」を確保するためのその他の措置の妥当性についても整理を行う必要がある。

また、ベストエフォート回線は通信品質の変動の可能性があるため、当該回線を利用したIP電話サービスについては測定条件の違いにより測定値が異なることも考えられるため、「接続品質」等の基準値の適用に当たっての測定条件等についても整理を行うこととする。

以上のように、技術の進展やネットワーク環境の変化に伴い、通信品質に関する新たなテーマを検討していくために「通信品質検討アドホックグループ」を設置する。

2 主な検討項目

- ① ベストエフォート回線を利用する0AB～J IP電話の通信品質（安定品質等）の考え方、当該通信品質の基準値の適用に当たっての考え方（測定条件等）
- ② その他、技術の進展等に伴って生じる通信品質に関する新たな検討テーマ（必要に応じて適宜検討）

3 本作業班の主任及び構成員

別紙のとおり。

4 作業スケジュール

平成24年7月を目処に作業班で一定の取りまとめを行う予定。

(別紙)

通信品質検討アドホックグループ 構成員一覧

(敬称略 五十音順)

氏名	役職
あいだ ひとし 相田 仁	東京大学大学院 工学系研究科 教授
あさみ とおる 浅見 徹	東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授
うちだ まさと 内田 真人	千葉工業大学 工学部 准教授
ごとう しげき 後藤 滋樹	早稲田大学 理工学術院 教授
さかい よしのり 酒井 善則	放送大学 特任教授 東京渋谷学習センター所長

主任

通信品質検討アドホックグループの検討事項

- ① ベストエフォート回線を利用して0AB～J IP電話サービスを提供する場合において、「音声パケットの優先処理」又は「音声とデータの帯域分離」以外の「安定品質」を確保する措置に係る判断基準の整理
- ② 「接続品質」、「総合品質」及び「ネットワーク品質」の技術基準の適用の考え方(測定条件等)の整理

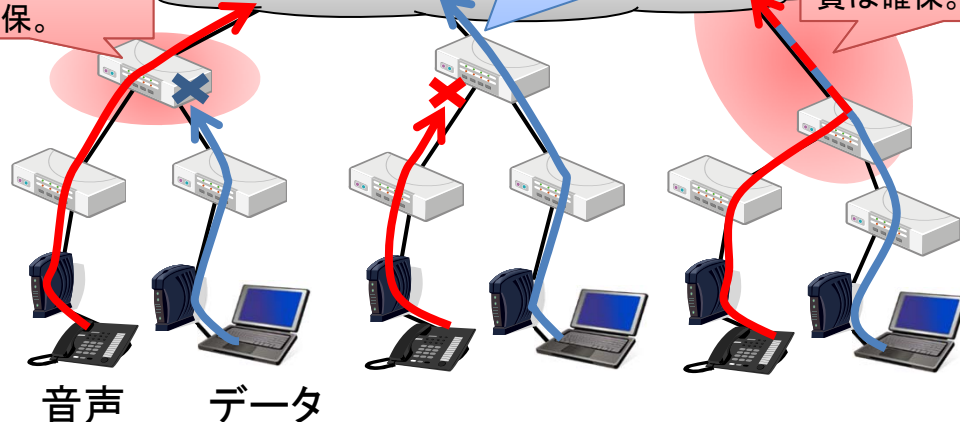
1 安定品質の確保

- ①0AB～J番号によるIP電話サービスは、平成16年に導入されたが、「接続品質」、「総合品質」及び「ネットワーク品質」以外に、「安定品質」として「アナログ電話用設備を介して提供される音声伝送役務と同等の安定性が確保されるよう必要な措置」を講じることを求めている。
- ②これまで、当該措置の具体的内容として「音声パケットの優先処理」や「音声とデータの帯域分離」を認めてきたところ。
- ③ベストエフォート回線のブロードバンド化に伴い、当該回線を使用した0AB～J IP電話のサービス提供の要望もあることから、「安定品質」を確保する措置に係る判断基準の整理が必要。

音声優先処理
音声パケットが優先処理されれば、通信混雑時でも音声の安定品質は確保。

ベストエフォート回線の場合
通信品質が変動、安定品質の確保の判断基準は何か。

帯域分離
音声とデータの帯域が分離されれば、通信混雑時でも音声の安定品質は確保。



2 「接続品質」等の適用

現在、0AB～J IP電話サービスについては、「接続品質」、「総合品質」及び「ネットワーク品質」のそれぞれの基準値について、95%以上の確率で満足することとされている。

ベストエフォート回線を利用したIP電話サービスでは、測定条件の違いにより測定値が異なることも考えられるため、「接続品質」等の基準値の適用に当たっては、測定条件等についても整理が必要。